

令和6年度学校関係者評価委員会のまとめ

高浜市立南中学校

1 本年度の取組

年2回の学校関係者評価委員会を予定どおり実施できた。

第1回：令和6年5月28日（火）紙面開催

第2回：令和7年2月6日（木）

2 自己評価（評価項目 A:十分達成、B:達成しつつある、C:不十分、D:ほとんど達成できていない）

※黄・・昨年↑ 青・・昨年↓

中期経営目標	短期経営目標	成熟度による成果指標	本校評価	
a 授業力向上	仲間とかかわることで自らの考えを深め、学び続ける意欲の醸成につながるよう、「学び合い」の授業の質を高める。	仲間とかかわりながら自らの考えを深めていくことができる授業	A	A
		学び続ける意欲の醸成	B	
b 学級経営力の向上	「級訓」「学級目標」を明確にし、一人一人の個性を生かしながら、集団としての成長につながる学級経営を行う。	一人一人の個性を生かした学級経営	A	B
		目標に向かって成長を続ける学級集団の育成	B	
c 集団の中で課題を発見し解決する力をつけさせる指導力の向上	「生徒自治」の精神を継承・発展させ、学校生活全般にわたってリーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会と場を保障する。	生徒主体の室長会、生徒会の活動	B	B
		リーダーとフォロアーが協調した活動の展開	B	
d まちづくりへの協働・貢献	まちづくりへの生徒の主体的な関わりの場を保障し、地域と協働して活動する中で、地域の一員としての自覚を高める。	生徒が主体性を発揮しながら地域と協働する活動	B	B
		地域の一員としての自覚をもった姿	B	
特別な支援を要する生徒に対する指導体制の充実	指導組織の確立と実効性のある運用	特別な支援を要する生徒・不登校生徒の満足度		A
多忙化解消の推進	在校時間の縮減に向けて業務の見直しの推進	在校時間の縮減		B

3 次年度への課題・更新策

<授業力向上>

- ・「南中スタンダード」は、授業開きにおいては必要とされている。週1回行われている「南中トークタイム」を「南中スタンダード」を意識して取り組むこととして位置づけることで、年間を通して教師が意識できるようにする。
- ・「自分の考えを直していく生徒」を追究することで、主体的・対話的な学びを実践していく。
- ・授業を参観することは、授業力の向上につながる。普段から「互いに授業を見合うこと」がしやすいように、時間割等を工夫していく。

<学級経営力向上>

- ・生徒自身が自己肯定感を高めるために指針となるよう、セラプラス（人づきあいアンケート）等の調査を実施する。それを指導・支援の参考とする。
- ・級訓や学級目標を柱とする学級経営のあり方について、若手教員の理解を深め、実践をつなげられるよう研修の機会を設定する。

<集団の中で課題を発見し解決する力をつけさせる指導力の向上>

- ・ファシリテーターとしての役割を自覚させる指導に自信がない教員のため、学級単位、学年単位での活動に重点を置いて、指導する教員が生徒の主体性を発揮させながら取り組みを進められる技能を高める機会を設定する。
- ・リーダーとフォロワーの望ましい姿が生徒・教員で共有できるよう南中だよりや諸通信で紹介する。

<まちづくりへの協働・貢献>

- ・ボランティア部のあり方を見直し、部員以外の生徒でも地域行事に関われる機会を増やしていく。
- ・協力的な支援者が多いので、地域や保護者の支援が必要な場合は、教員に教頭へ申し出るように伝え、教頭が外部とつなげていく。

<特別な支援を要する生徒・不登校生徒に対する指導体制>

- ・学校不適應の原因が多様化している。外部との連携を密にし、必要ならばケース会議を開き、担任一人で抱えることなく、教職員が連携して対応できる仕組みを確立する。

<多忙化解消の推進>

- ・職員会は事前に提案内容を知らせることで、短時間で終了し、学年会の時間を確保する。
- ・部活動を行わない期間や日を市内の中学校で統一し、部活動指導における負担軽減を図る。

#### 4 本年度の取組についての評価委員からの主な意見

- ・生徒が落ち着いて、のびのびとしている姿が南中生らしい。生徒が親しみをもって先生と関わっている。とても温かくのびやかな教育環境である。授業は、分かりやすさや焦点化を図るための工夫が数多く見られた。
- ・例年課題としている地域との協働で、ボランティア部の見直しが掲げられているのが、期待できる。誰もが地域活動に参加できるようになるとよい。
- ・職場体験にきた生徒が明るく素直で真面目に作業に取り組むことができる姿から、いかに日頃から一人一人の個性や特性を大切にした教育を実践しているかがうかがえた。
- ・リーダーシップに対する自己評価が低くなってしまいが、実際にはさまざまな場面で自主的に動いていることも多いと思う。本人が自分で認識できる機会を増やしていきたい。
- ・学力面において、この1年での変化はどうか。←課題テストを一律に行っていたが、今後は、生徒が個々にあった課題に取り組み、自己の成果を感じられるような取り組みをしていきたい。

#### 5 自己評価を踏まえての次年度の重点目標（案）

重点目標	
自立した大人になるための基礎づくり —南中文化の向上—	
a	<b>授業力向上</b> 「学び合い」を通して学ぶことの達成感、充実感を感じさせ、将来の自立した学びにつながる授業を展開する。→継続
b	<b>学級経営力の向上</b> 「級訓」「学級目標」を明確にし、一人一人の個性を生かしながら、集団としての成長につながる学級経営を行う。→「級訓」「学級目標」を明確にするために、学校訓「自己を高める」を意識する。一人一人の個性を生かすためには、 <u>帰属意識、自己有用感</u> が育つ学級経営を行う。
c	<b>生徒自治力の向上</b> 「生徒自治」の精神を継承・発展させ、学校生活全般にわたって、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・ <u>評価しながら活動</u> できる機会と場を保障する。→生徒が自己評価できる場を設定する。
d	<b>まちづくりへの協働・貢献</b> まちづくりへの生徒の主体的な関わりの場を保障し、地域と協働して活動する中で、地域の一員としての自覚を高める。→地域と協働するとは、 <u>地域とつながっていることを意識した活動</u> であると捉える。

※下線部を課題とする。